

歴史的な地域資産を守り・育て・つなぐ
 特定非営利活動法人歴史的な地域資産研究機構の活動から



角 幸博 (かど ゆきひろ)

NPO法人歴史的な地域資産研究機構代表理事

1947年札幌生まれ。70年北海道大学工学部建築工学科卒業後、同大助手、助教授、教授を経て、2012年特定非営利活動法人歴史的な地域資産研究機構（れきけん）を設立。北海道大学名誉教授、藤女子大学非常勤講師。40年以上にわたり、日本近代建築史、北海道建築史、南サハリンの日本期建築の研究、歴史的な建物の価値評価、記録作成、歴史的な建物の保存・活用・市民運動支援、歴史を活かしたまちづくり、地域づくりに関わる。公職に、札幌市文化財保護審議会会長、日本民俗建築学会理事、北海道文化財保護協会副会長など。主な著書に『北の建物』『歴史と建物の散歩道』『札幌の建築探訪』『道東の建築探訪』。

歴史的な地域資産研究機構の設立

特定非営利活動法人歴史的な地域資産研究機構（以下「れきけん」）は、2012年3月に設立総会を開催、12月に法人登記された。

この背景には、多くの歴史的な建造物の喪失、貴重な設計図面・写真・建築関連書類などの散逸、消失が急速に進んでいることへの憂慮がまずあった。また、道内の学術研究者や建築技能者を含めた専門家をネットワーク化し、歴史的な地域資産データの一元化、歴史的な地域資産の調査・研究・評価、改修修復事業への助言などの相談窓口や体制づくり、建築アーカイブの構築などで、まちづくりや地域づくりに寄与していきたいという願いもあった。

筆者は、建築家田上義也^{※1}の戦前期の図面500数点や帝国ホテル1階平面図等の貴重な図書類や写真、蔵書等を田上家から寄託されており、また扱いに困った棟札^{※2}なども持ち込まれていたことも、「れきけん」立ち上げの大きな原動力となった。

現在、事務所スペースの半分を、これら歴史的な資産を収蔵する「れきけん建築アーカイブ」としているが、これは公設の建築博物館やデザイン博物館のような機関に収蔵されるまでの経過措置と考えている。

2012～14年度には、「歴史は生きる力『れきし・いのち』プラットフォームプロジェクト」が（公財）秋山記念生命科学振興財団のネットワーク形成事業の助成をいただき、全道の歴史的な資産を保存活用している団体とのネットワークを充実させたほか、博物館網走監獄「五翼放射状平屋舎房」（登録有形文化財）の移築復元・改修工事調査や寿都町の歴史的な地域資源を活かした“まちづくり”のための資源調査、全道各地からの歴史的な建造物の評価相談など、着実に活動の幅を広げている。



建築アーカイブ収蔵の棟札

※1 田上義也
 帝国ホテルの設計者フランク・ロイド・ライロの弟子で、大正から昭和にかけて北海道を拠点に活躍した建築家（1899～1991年）。札幌新交響楽団創設者、初代指揮者。

※2 棟札
 棟上げの際に、由来、施主、施工者、建築年月日などを記して棟木に打ち付ける札。

建築ヘリテージサロンとの連携

歴史的建造物を修復する際の技術的サポートは、「れきけん」の兄弟機構「建築ヘリテージ^{*3}サロン」の会員にいただいている。同会は2009年に発足し、瓦、れんが、左官、石材、塗装、文化財修復などの技能者から構成される、堅苦しいルールのないサロンである。歴史的建造物の修復や改修の際には、これら技能者のサポートが大きな力に。歴史的建造物の所有者には、建物の価値評価はもちろんのこと、将来の維持管理への不安も大きい。「れきけん」は、建築ヘリテージサロンと両輪で、この不安を払拭しつつ、歴史的資産を次世代に引き継ぐことを目標としている。

れき・まち・ひろばinチカホの開催

ネットワーク形成事業では、これまで「れき・まち・ひろばin〇〇」と題して、円卓会議^{*4}やパネル展示を行ってきたが、2014年2月には札幌駅前通地下歩行空間（通称「チカホ」）で、「れきけん」の活動、建築ヘリテージサロン、れきけん建築アーカイブ、豊平館保存活用工事などの紹介パネル展と建築技能者集団によるワークショップの二本立て、「技をつなぐ、未来を創る～れき・まち・ひろばinチカホ～」を開催。

石、レンガ、左官、瓦、木、塗装の職人さんたちが匠の技を実演し、子供たちを中心とする参加者が仕事の一部を体験するモノづくりワークショップである。レンガでアーチを作り、実際に乗ってみたり、瓦屋根の上を歩いてもらったり、ペンキ塗りや土壁塗りを体験してもらい、2日間で大人の参加者も含め160名ほどの参加があった。

北海道文化遺産活用活性化計画

2014年度の文化庁の「文化遺産を活かした活性化事業」に「北海道文化遺産活用活性化計画」が採択された。この事業は、「れきけん」と北海道文化財保護協会、北海道建築士会の三者が協働して事業を進めるとい



チカホで職人さんとレンガアーチ積み体験

北海道初の試みである。取り組みの内容は、(1)歴史的地域資産の現況および将来資産の調査、(2)歴史的地域資産の保存活用の検討と推進のための普及啓発事業、(3)地域性を考慮したヘリテージマネージャー育成のための制度設計および認定試験の実施などである。

ヘリテージマネージャーは、歴史的建造物の保全活用に関わる専門家で、建築士会を中心に、すでに兵庫、愛知、三重、徳島、大分、熊本ほか13県（2014年4月現在）で育成講座が開始されている。本道では、ヘリテージマネジメント専門員を、ヘリテージアドバイザー、ヘリテージマネージャー、ヘリテージコーディネーターの三者で構成、そのネットワークとして、北海道ヘリテージマネジメントアソシエーション（仮称）創設を目指している。

ヘリテージアドバイザーは、マネージャーやコーディネーター養成を行なう講師陣で、各種案件のアドバイザーとしてマネージャーやコーディネーターの相談を受け、指導する役割を果たす。マネージャーは、文化遺産および歴史的建造物、歴史的地域資産等の修理技術や活用手法、歴史文化遺産を活かしたまちづくり等に関する専門知識を有し、保存活用に向けた提案をアドバイザーと連携してマネジメントする建築士を中心とする人材。コーディネーターは、保存活用に向けた提案を行う、アドバイザーやマネージャー、各種専門家と連携可能な学芸員や市民も含めた人材である。マネージャー60時間、アドバイザーは30時間の、いずれも土、日曜日のハードな講習であるが、今年7月から試行の予定である。近いうちに、北海道各地に、歴史的地域資産の価値や保存活用のためのスキルを有する建築士や市民が増え、各地の資産を活性化し、次世代につなぐことができるものと期待している。

「人生は出会い」とは、建築家田上義也の座右の銘である。田上義也資料を中心とする建築アーカイブの充実と建築技能者や学術研究者間のネットワーク形成から、さらに多くの地域の方々との出会いをいただき、楽しく活動を進めていくことが、「れきけん」の目指すところである。

※ 「れきけん」の相談や建築アーカイブの閲覧は、事務局（090-3468-3741 / rekikenjimu@gmail.com）までご連絡ください。

※3 ヘリテージ (heritage)
受け継いだもの。継承していくべきもの。遺産。

※4 円卓会議
歴史的地域資産の保存や活用に関わる団体の意見交換の場。